

参画だより

No. 29

2006.10. 5

弘前市民参画センター

「ナビでつくる私の人生」 女性の再チャレンジのための道案内



自分の再チャレンジ体験を話す渋谷さん

9月2日、市民参画センターで、平成18年度ひとにやさしい社会推進セミナー「ナビでつくる私の人生」が開催されました。

まず、名古屋市男女平等参画推進センター指定管理者で、NPO法人「参画プラネット」代表理事の渋谷典子さんが、「自分にチャレンジ」と題して講演を行いました。

渋谷さんは、社会の中で女性への負荷や男性の働き方への疑問から女性学を学び、志を共にする人々との出会いを経てNPO法人を立ち

上げるに至った経緯を自らの「ロードマップ」として紹介。自分の枠を決めつけず、やれることから積み重ねていくことがそれぞれのキャリアになると参加者へエールを送りました。

講演に引き続いて行われたワークショップでは、最初に地元で活動している石岡百合子さん、清野眞由美さん、小野敬子さんの3人がナビゲーターとして、再チャレンジを目指す人たちへの道案内となるよう、一人ひとり体験談を語りました。次に参加者が3つのグループに分かれ、ナビゲーターの助言を受けながらそれぞれのロードマップづくりに挑戦しました。完成したロードマップは、どれも地域と共に生きていこうとする気持ちにあふれ、講師の渋谷さんも感心しきりでした。

この日作成したロードマップは、10月28日（土）の市民参画センター交流まつりで展示される予定です。

◇参加者の感想◇

本当に息の合った7人グループでした。この出会いを大切にしたい方とさっそく助言を受けたナビゲーターが経営する平川市のゆい農園に行こうと約束をして別れた一日でした。

吉田聖子

最初「人生ナビって何？」と思いながら過去、未来、現在と考えてみたらなかなかペー
ンが進まず困りました。しかし過去の人生を書き出すことで現在の自分の意識も明確化されてきます。残りの人生、何事にも逃げないで全うしたいですね。

澤田秀子



各グループの代表が
ロードマップを紹介



完成したロードマップは
力作ぞろい！



渋谷典子さんとナビゲーターのみなさんのお話は大変わかりやすくてためになりました。豊かな発想で人生を切り開いていくこと、「年をとる」を「年齢を重ねる」と言い換えること、行動を考案にすることなど、実践から生まれたたくさんエッセンスをわけていただきました。

渋谷洋子

「自分らしく、安心して、生き逝きたい」

「弘前成年後見制度を考える会」

シンフォニー 篠崎美伸さん



弁護士による講演会に多くの聴衆が感心！

熟期に活用し、共に考え、学び助け合うことの実現を目指し設立しました。

☆活動内容は？

- ①成年後見制度の普及広報活動として、講演、講座、ワークショップの実施
- ②法の専門家、アドバイザーによる成年後見制度相談室を本年12月より開設※
- ③会員相互の交流と成年後見制度の関連団体とのネットワークの構築

※無料です。毎月1回第3日曜日午後1時30分～午後5時に開催を予定しています。お問い合わせは下記（篠崎）まで。

☆最近の活動は？

9月3日にジェンダー学習グループ「きづき」の協力により、人形劇で大まかに制度



人形劇で楽しく学ぶ



の必要性を伝え、後半、弘前市の出前講座を利用して詳しく説明しました。また、

9日には公証人の印部久さんを講師に招き「成年後見制度・権利擁護」と題して講演会を催し、成年後見制度に含まれる「任意後見」のメリット・デメリットと、公証役場の役割や公証人についてお話しいただきました。

☆10月以降の予定・計画は？

11月に講演会、12月に出前講座、1月に講座、2月に本制度の活用者による座談会を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

☆会員は募集していますか？

募集しています。年会費は千円です（通信費として）。会員条件は成年後見制度に関心がある人。特に当事者性を持つ人（親族のため、自分のためなど成年後見制度の活用に必要な人）は大歓迎です。

☆今後の抱負は？

この制度には、自己実現・自己決定権・生存権・幸福追

求権等、憲法で個々の国民に与えられている権利を擁護してくれる人権保障の理念があります。

個性や権利の主張や尊重は大事です。家族や地域のなかで個性・没自我で生きているのではなく、「自分らしく」生きることが大切です。家族の一員の「自分らしく」を捨てさせず、「共生」することで調和が生まれ、自分の人生の交響曲（シンフォニー）の最後の旋律を素晴らしい響きに仕上げることもできると思います。

これからも、この制度の正しい理解の普及のために、講演会などの活動を続けるほか、相談室を開設して、日常生活上の不安と問題解決の道筋に寄り添いたいと思います。ルソーの言葉に「一人は全体のために、全体は一人のために」という言葉があります。



行政の出前講座を利用した勉強会

す。この言葉をみんなで考え、支え合う心で一緒に歩みませんか。

『成年後見制度とは』

病気や諸障害などの理由で判断能力の十分な方々は、不動産や預貯金などの財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだり、遺産分割の協議をしたりする必要があっても、自分でこれらのことをするのが難しい場合があります。また、自分に不利な契約であってもよく判断ができずに契約を結んでしまい、「悪徳商法」の被害にあう恐れもあります。このような判断能力の十分な方々を保護し、支援するのが「成年後見制度」です。他に、本人が十分な判断能力があるうちに将来に備えて、あらかじめ自らが選んだ代理人（任意後見人）に、自分の生活、療養看護や財産管理に関する事務について代理権を与える契約（任意後見契約）を公証人の作成する公正証書で結んでおく制度も含まれます。

《問い合わせ先》

Tel 0172-351-3678

（篠崎）

☆団体の設立の動機は？

老いたとき、障害を抱えたとき、最後まで「自分らしく」「安心して」独立自尊の存在として生き逝きたい。この意識を持つ数名（親の介護を終えた方、単身者など）が、成年後見制度を知り、人生の円

☆シンフォニーとは？

グループ名「シンフォニー」の意味は交響曲のこと。成年後見制度を「自己の人生に活用し、交響曲のようにバランスのとれた心地よい旋律の人生に仕上げたい」との思いからグループ名にしました。

「女性が再チャレンジしやすい社会へ」

平成 18 年版男女共同参画白書が発表されました。

本年の特集は、「女性が再チャレンジしやすい社会へ」をテーマとして取り上げ、子育て期の女性の労働の現状と、子育て等によりいったん退職した女性の再就職・起業等の現状について分析するとともに、女性の再チャレンジ支援策について記述しています。

以下で、特集の概要についてご紹介します。

※詳しくは、「男女共同参画白書 平成 18 年版」(独立行政法人国立印刷局発行)、あるいは内閣府男女共同参画局ホームページ (<http://www.gender.go.jp>) をご覧ください(市民参画センターで閲覧できます)。

特集のポイント

第 1 節 子育て期の女性の労働の現状

- ◆女性の労働力率^{*}は子育て期に低下するが、子育て期の就業希望者は多い。
- ◆仕事と家庭に関する男女の意識の変化をみると、女性が職業を持つことについて、男女ともに継続就業支持が最多となっている(図 1)。
- ◆女性の勤続年数は長期化傾向にあるが、第 1 子出産前後で就業を継続できている女性は 3 割に満たない(図 2)。
- ◆今後、人口の減少、団塊世代の大量退職等により人材不足が懸念される中、企業における女性の活用が重要になると予想される。

※労働力率…労働力人口の 15 歳以上人口に占める割合

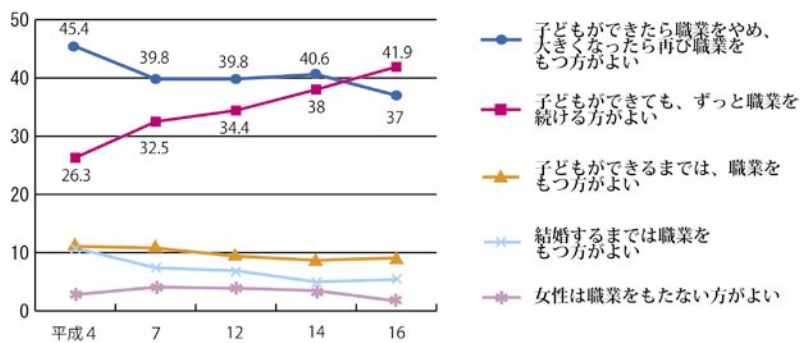
第 2 節 女性の再就職・起業等の現状

- ◆就業希望率が 30 歳代で最も高くなる一方、30 歳代の再就職率は低く、希望と現実には大きな差がある。また、40 歳代の大学・大学院卒の有業率が低い。
- ◆女性の再就職における雇用形態は、パートが多数を占めている。正社員での再就職を希望しても、実際に正社員となるのは難しい。
- ◆希望に沿った再就業が難しい要因を女性の意識からみると、仕事と子育ての両立、企業の採用行動の問題など様々な課題がある。

第 3 節 誰でも再就職・起業等ができる社会を目指して

- ◆女性が再就業に当たって企業に求めているのは、家庭との両立に関する事項や、採用時の年齢制限の緩和などが多い。一方、企業は専門的・技術的人材に不足感を感じている。
- ◆政府では平成 17 年 12 月に「女性の再チャレンジ支援プラン」を策定しており、今後、総合的な情報提供、地域におけるネットワーク構築、学習・能力開発支援、再就職支援、起業支援などの施策を講じることとしている。

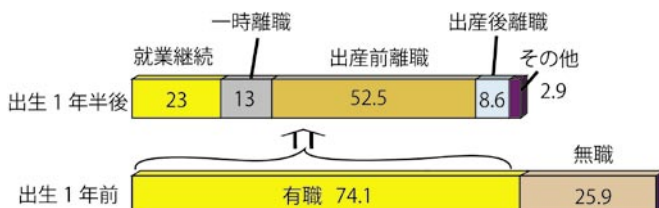
図 1 女性が職業をもつことについての考え



(備考) 1. 内閣府「男女共同参画に関する世論調査」より作成
2. これらの回答のほかに、「その他、わからない」があるため、合計しても 100%にならない

内閣府「男女共同参画に関する世論調査」によると、女性が職業をもつことについての考えは、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と考える「継続就業」支持(41.9%)が、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と考える「一時中断・再就職」支持(37.0%)を上回っています。調査開始以来、初めて男女ともに「継続就業」支持が最多になりました。

図 2 第 1 子出生 1 年半後の就業パターン



(備考)

- 厚生労働省「出生前後の就業変化に関する統計(人口動態統計特殊報告)」(平成 15 年度)より作成
- 就業パターンの分類の定義は以下のとおり
就業継続: 出生前後を通じて一貫して有職の者
一時離職: 出生前に有職であったが、出生を機に一時的に離職し、1 年半後には有職の者
出産前離職: 出生前に有職であったが、出生時には無職となり、出生後も無職のままの者
出産後離職: 出生前、出産時には有職であったが、出生後のいずれかの時点で無職となった者

女性の勤続年数は長期化傾向にあります。出産を機に離職する女性も多く、第 1 子の出生 1 年前に有職であった母親で、出生 1 年半後まで一貫して継続就業している割合は 23%、一時離職して出生 1 年半後までに再就職した割合は 13%となっています。

(弘前市民参画センター利用団体紹介)

《弘前カウンセリング研究会》
「お話をして、心をスッキリ」

私たちの会では、毎月1回集会をしています。その集会では、初めて参加される方でもできるだけ、リラックスできるように心がけています。

この集会ではお話できた方も、聴いた方も、スッキリし心があつたかくなり元気になって、また一か月自分らしく生活しようと思えたら良いな願っています。

守っていただくことは1つ『ここで話された事は、他言しない』ことだけです。

一度、おしゃべりしてみませんか

☆集会日

10月28日(土)	1月20日(土)
11月18日(土)	2月17日(土)
12月16日(土)	3月17日(土)

☆場所

中弘教育会館 弘前市東長町 25
TEL 0172-35-7789

☆時間

午後2時～5時
(個人面談も受け付けています)

☆問い合わせ先

〒036-8144 弘前市原ヶ平 2-3-16
土田信子
TEL 0172-87-4072 (兼 FAX)



編集後記

1面で扱ったワークショップに参加しました。
『これからの自分の人生を考える。そして、自分で決める』
やりたいことがいっぱいあるのに、忙しいからと諦めていたことが多いなあ。何事も始めるのに遅いことはないはず。今年の春の新聞記事で、60歳過ぎに大学で学び始め、75歳で「博士号」を取得した女性を知った。よし、まずはボランティアの実行とNPOの勉強だ。
いも



本の紹介

タイトル

『＜雅子さま＞は
あなたと一緒にほいている』

「現代の女性たちが直面している
問題を考えるために」

著者 香山リカ
発行 筑摩書房



2002年4月2日、皇太子、雅子さま、久しぶりに二人そろっての記者会見での突然の涙。愛子さまのお話をされたあとに、涙ぐみ、言葉に詰まった雅子さま。世間では「母になった感動が素直に現れていてほほえましい」と受け取ったようだが、精神科医でもある筆者は、たいへん失礼な話かもしれないが、「話しながら涙をこぼす」などとそれまでの雅子さまからは考えられないような姿を見て、「もしかしたら情緒が安定せず、感情のコントロールがきかなくなっているのではないか」という危惧観を抱いたという。もし、本当に感情のコントロールがうまくいかないのなら、原因はなんだろう。産後、情緒が不安定になる「マタニティーブルー」は過ぎたはずだ。何か過剰にエネルギーを使うストレス状況があるのだろうか。

2004年7月30日、宮内庁が雅子さまの病状について「適応障害」との診断結果を発表したので、「もしかしたら雅子さまは幸せいっぱいではないのかもしれない」と思ったり、時々放映される皇室のニュースなどでお元気な姿を見ると、「よかった」と思いはするものの、積極的に情報を得ようとはしなかったのが、この本を手にして、多少、驚きもあった。

筆者はエピローグで「本書は、雅子さまをあくまでも一つの手がかりとして、現代の女性たちが直面している問題を考えるために書かれたもの」とし、決して「雅子さまの心の深層を暴く」のが目的ではないと述べている。

本文を読み進めるとそれがよく分かる。「仕事と恋愛」「結婚」「子ども」そして最後に「泣かないための七つの心得」と進むが、どの章にも少なからず「思い当たること」があったり、「なるほど」とうなずいたりする。本文に出てくる「著書」も多く、読みたいと思いながら読む機会を逃してきた本の内容を垣間見ることもでき、読みたい本も見つかる。いつの時代にも存在する女性問題。興味を持つ人にとってはとてもおもしろい教材になるのではないだろうか。

by komori

弘前市民参画センター

編集 メディア部会

〒036-8355 弘前市元寺町 1-13
TEL 0172-31-2500
FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00
休館日 年末年始・臨時休館日

— お知らせ —

「第3回市民参画センター交流まつり」を開催します

市民参画センターを会場に、センター利用団体の活動を新弘前市の皆さんに広く紹介し、交流を図る集いの広場を開催します。

どなたでも入場できますので、お気軽においでください。

▽とき 10月28日(土) 午前10時～午後4時半

▽内容 記念講演「忍耐の、その先に!!」(NHK弘前支局長 山本和之さん)
ほか、イベント・展示・販売など

▽駐車場 当センター向いの市民中央広場を臨時駐車場とします
(できるだけ公共交通機関をご利用ください)

▽問合先 市民参画センター交流まつり実施委員会事務局
電話 0172-31-2500 (市民参画センター内)